

令和6年度 第2回 「淡路島観光戦略会議」 議事要旨

日時：令和6年10月4日（金） 14:50~16:00

場所：淡路広域消防ビル3階 多目的ホール

出席者：淡路県民局長、洲本市長、南あわじ市長
淡路市長、淡路島観光協会会長

話題提供：神戸空港国際化に向けた定期チャーター便の就航について（㈱大韓航空 西日本支店長）

【大韓航空】

- ・ 来年の春から、神戸空港の国際線チャーター解禁に伴って1日2便の仁川～神戸線の運航計画を正式に表明した。
神戸空港は国内線のみでの運航で、国際線は関西国際空港に限られていたが、万博開催を契機として国際線の就航を正式に発表した。
現在、関西国際空港から仁川空港線を1日に6便運航している。
国際線は関西国際空港に限られていることもあって、神戸や淡路島になかなか足が向かなかつたが、今回の就航は、足を向ける1つのきっかけとして提供できる。
アウトバウンドの方々にとっても、仁川を経由して欧米等に渡航する際に便利なので、安定した運航ができるように務めたい。

【構成員】

- ・ 利用者等の現状はどうか。

【大韓航空】

- ・ （大韓航空に限らず）1日36便が韓国から関西国際空港に運航している。
利用者の割合としては、インバウンド7割・アウトバウンド3割、円安も相まって、この傾向は変わらないと思う。座席の逼迫もあるので今後、需要も多くなると思っている。

【構成員】

- ・ 現在は関西国際空港に入って、大阪に行く人が多いのか。

【大韓航空】

- ・ 大阪を拠点として、京都・奈良等の有名観光地を観光して、宿泊は大阪でというケースが多い。できるだけ神戸・淡路島の宿泊者が増えればいいと思う。
- ・ 韓国の海外旅行者はグルメ、温泉、日本酒、ゴルフの4項目に関心を示す傾向で、それらを備えている九州は最近人気である。淡路島もポテンシャルは高いと考えている。

【構成員】

- ・ 仁川空港の最寄りの市は。

【大韓航空】

- ・ 仁川広域市で、ソウルから地下鉄で約1時間の距離である。ゴルフ場はあるが、エントリーフィーが高くて日本のゴルフ場の人気が高い。

【構成員】

- ・ 大阪以西にポテンシャルがあるから、神戸への就航を決定されたと思っている。
中国・四国も含め大阪以西には空港がたくさんあるので、神戸から入国して神戸から出国するだけではなく、それらの空港の活用も視野にあるだろう。韓国のお客様の動向はどうなのか。

【大韓航空】

- ・ 今まで、関西国際空港を利用しないと海外旅行ができなかった姫路や加古川、淡路島等の方々には利用が期待できる。
大阪や京都の観光資源の魅力もあってか、関西国際空港から入国・出国するお客様も多かったが、関西の旅に慣れた韓国の方にとっては、新しい旅を提供できると考えている。

【構成員】

- ・ 神戸空港から入国し、岡山や高松等の瀬戸内の空港を利用するというケースは考えられないか。

【大韓航空】

- ・ F I T化が進んでいるので、あまりないと思う。大都市圏やその周辺の観光地も深掘りがまだできるため、インターネットや動画サービスで情報を収集し、旅行する傾向にある。

【構成員】

- ・ 仁川空港には、何カ国くらいの国際線が運航しているのか。

【大韓航空】

- ・ 約 130 カ国の国際線が仁川に運航している。
韓国だけでなく、東南アジアや欧米のお客様が仁川を経由して神戸に入国することを期待している。

【構成員】

- ・ 関西国際空港を「アジアのハブ」と謳っていたが、仁川に完全に負けた。
今回の定期便就航を受けて、欧米から旅行される方は便利になる。

議事：

- (1) 令和 6 年度上期 淡路島総合観光戦略アクションプランにかかる取組状況について

事務局から資料 1-1、1-2、1-3 について説明

【構成員】

- ・ 高速バス（三ノ宮ー福良線）のオープンドアはどこがオープンドアになっているのか。

【事務局】

- ・ 三ノ宮ー福良線は令和 3 年 3 月から「陸の港西淡」でオープンドア化している。
また、今月 1 日から一部の便で実証実験的に神戸空港まで延伸し、淡路 IC・北淡 IC・津名一宮 IC でオープンドア化を実施している。

【構成員】

- ・ 前回の観光戦略会議で「海ほたるショー」のコンテンツが盛況であるとの報告があったが、他に人気のコンテンツは何かあるのか。

【事務局】

- ・ 「海ほたるショー」は、7 月～9 月で 1800 人を動員し、連日満員と盛況だった。
追従するようなコンテンツはまだない状況だが、オニオンスープの缶詰作り体験ができる洲本市の(株)アイナスがテレビで取り上げられたり、他のコンテンツも PR TIMES に記事の掲載をしている

ただいたり、メディアへの露出も徐々に増えてきている。特別感があり目玉になるような淡路島らしいコンテンツの造成に引き続き取り組んでいく。

【構成員】

- ・ 最終的には 60 コンテンツの造成を目指している、という認識で良いか。

【事務局】

- ・ AWA J I 島博に向けて 60 件の造成を目標としている。現在 46 件で、事業者と交渉・造成中のコンテンツもある。由良漁港のセリ体験とイートインがセットになったコンテンツを例として、特別感のあるコンテンツにブラッシュアップすることも平行して取り組んでいく。

【構成員】

- ・ 首都圏やインバウンドからの誘客を促進することが目的にあり、首都圏に関しては徐々に成果が出てきた。
一方で、観光客に占めるインバウンドの割合は 1%代と大阪・京都・東京に溝を開けられている状況である。
インバウンドの 1 月あたりの宿泊客は、京都が 100 万人、大阪 200 万人、兵庫 10 万人でその内、神戸が 6 万人である。
万博機会に伸びるようにと考えている。

(2) 大阪・関西万博、AWA J I 島博等に向けた誘客促進について (交通施策等)

- ①高速バスのオープンドアの状況
- ②島外からの円滑な移動手段の充実に向けて
- ③高速舞子バスストップの環境整備等

事務局から資料 2、3、4 について説明

【構成員】

- ・ 交通アクセスに関して、ここまで取り組んでいただいてありがたい。オープンドアのバスを降りてからのコミバス等の移動手段に関しては、市としても考えていかなければならないと感じた。
- ・ 観光タクシーの状況はどうか。

【事務局】

- ・ 何件か予約は入ったが、そこまでではないと確認した。
島内での移動手段については、淡路ICからのレンタカー利用が定着してきており、月に100件ほどの予約が入っている状況である。

【構成員】

- ・ オープンドア化は一定の成果があると感じているが、京都・大阪から四国も含めた広域観光連携が目標である。

【構成員】

- ・ 淡路島を素通りする四国行きの方が多くは課題だと認識している。
高速舞子のバスストップ整備に関しては、事業者は1/2でも負担ができない状況であり、バス協会の補助が県の補助より優位であれば、活用の働きかけもしていく必要がある。
バスモの周知徹底や乗り換えをわかりやすくする等のソフト面の改良を事務局中心に取り組んでいく。

【構成員】

- ・ 「移動手段として」のレンタサイクルがあってもいいと思うが、荷物をどうするのかという問題もある。

【事務局】

- ・ 検討する。

(3) その他

【構成員】

- ・ 進展はしてはいるが、今年度で国の補助金が切れる。
次の戦略の検討をお願いしたい。

【構成員】

- ・ バス業者に神戸空港発着を要請してはどうか。

【構成員】

- ・ 検討する。

【構成員】

- ・ 今回の議論を踏まえて、来年度どうするのかを次回戦略会議において議論する。

以上